

整理番号: EP0136

発送番号: 356781

発送日: 平成17年10月 3日

1

## 拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2002-077132
起案日	平成17年 9月21日
特許庁審査官	金田 孝之 3144 5V00
特許出願人代理人	細田 益稔 様
適用条文	第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

## 理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内において頒布された下記の刊行物1-4に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

2. この出願は、明細書及び図面の記載が下記(1)-(12)の点で、特許法第36条第4項及び第6項に規定する要件を満たしていない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

## [理由1]

・請求項1-19

引用文献1-3及び4

(備考) 引用文献1 (段落20-24参照)、引用文献2 (第8頁第7行-第9頁第18行参照)、又は、引用文献3 (段落20-37参照) には、それぞれ、色補正テーブルによる色変換後の格子点データにおける平滑化の程度を評価するための関数を用いて色補正テーブルを生成する発明が記載されている。

また、引用文献4 (段落36参照) には、彩度一定を条件とする色変換技術が記載されており、引用文献1-3に記載の色補正テーブルを引用文献4に記載の技術を適用することは、当業者が容易に想到し得るものである。

## [理由2]

(1) 請求項1に係る発明は記載が不明確である。また、発明の詳細な説明との

整理番号: EP0136 発送番号: 356781 発送日: 平成17年10月 3日 2

対応も不明である。

- ・平滑化がどの様にして行われるかが分からない。
- ・平滑化の程度とは、どの様な指標であるかが分からない。また、どの様にして平滑化の程度が評価されるかも分からない。
- ・平滑化程度評価関数がどの様に用いられて、色補正テーブルを作成するのが不明である。
- ・平滑化前後における各格子点の色データが示す彩度をほぼ一定に保つように色変換する色補正テーブルがどの様にして生成されるかが不明である。
- ・「ほぼ」一定との記載からは、発明の範囲を特定することができない。

(2) 上記(1)で指摘した点については、請求項2-6、17-19に係る発明の記載についても同様である。

(3) 請求項5に係る発明に記載の最大彩度を示す色データとは、平滑化前のデータであるか平滑後のデータであるかを特定することができない。

(4) 請求項6に係る発明に記載の色データを構成する複数の要素色には、RGB、CMYK、CIE L\*a\*b\*等様々な態様が含まれる。しかし、発明の詳細な説明の記載の技術は、これら全ての態様について適用可能に記載されていない。

(5) 請求項8に係る発明は記載が不明確である。また、発明の詳細な説明との対応も不明である。

- ・色補正テーブルとインク量ベクトルとが、どの様に関連するかが不明である。
- ・色補正テーブルによる変換前後のインク量ベクトルとの記載から、変換前後で異なる色空間のインク量ベクトルが想定される。してみると、互いに異なる色空間におけるインク量ベクトルのねじれ量が、どの様にして求められるかが不明である。
- ・ねじれ量からどの様にして評価関数が得られるかが不明である。
- ・請求項8に係る発明の評価関数が、平滑化の程度とどの様に関連するかが分からない。

(6) 請求項9に係る発明は記載が不明確である。また、発明の詳細な説明との対応も不明である。

- ・仮想CMYとは、どの様な色空間であるかが不明である。
- ・何と何のねじれ量を評価するかが不明である。
- ・仮想CMYにおけるねじれ量からどの様にして評価価数を求めるかが不明である。
- ・請求項9に係る発明の評価関数が、平滑化の程度とどの様に関連するかが分からない。

らない。

(7) 請求項10に係る発明は記載が不明確である。また、発明の詳細な説明との対応も不明である。

・前記3次元化された仮想CMY空間との記載は、3次元化された前記仮想CMY空間の誤記ではないか? また、請求項10は、請求項2の引用形式請求項であるが、請求項2には、インク量空間に関する記載、仮想CMY空間に関する記載がない。

・インク量空間及び仮想CMY空間と、色補正テーブルによる色変換に用いる色空間とが、どの様に対応するかが分からない。

・ねじれ補正をどの様に行うかが分からない。

・次元圧縮とは、どの様な技術であるかが分からない。

・請求項10の記載からは、次元圧縮前後の空間の連続性を保持しつつねじれ補正をどの様にして達成できるかが分からない。

(8) 請求項11に記載の目的のインク量からの離れ程度からどの様にして評価関数を求めるかが不明である。

また、評価関数は、目的のインク量と何との離れ程度によるものかが分からない。

さらに、請求項11に係る発明の評価関数が、平滑化の程度とどの様に関連するかが分からない。

(9) 上記(8)で指摘した点については、請求項12に係る発明の記載についても同様である。

(9) 請求項13に係る発明からは、どの様にして彩度をほぼ一定に保つ色変換が達成できるのかが不明である。また、「ほぼ」一定との記載からは、発明の範囲を特定することができない。

(10) 請求項14の記載からは、色補正テーブル、色変換及び色補正テーブルを用いた画像処理等の本願発明の各構成と、インク量との関係が不明確であり、インク量制限がどの様にして決められるかも不明確である。

また、インク量制限をこえる程度から、どの様にして評価関数を求めるかが不明である。

さらに、請求項14に係る発明の評価関数が、平滑化の程度とどの様に関連するかが分からない。

(11) 請求項15に記載の負のインク量は、どの様にして実施できるかが分からない。

整理番号: EP0136 発送番号: 356781 発送日: 平成17年10月 3日 4/E

また、インク量が負になったことから、どの様にして評価関数を求めるかが不明である。

さらに、請求項15に係る発明の評価関数が、平滑化の程度とどの様に関連するかが分からない。

(12) 請求項16の記載からは、インクの発生が本願発明の各構成とどの様に関連するかが不明確である。

また、インクの発生とはどのような事項であるかを特定することができない。

さらに、インクの発生からどの様にして評価関数を求めるかが不明であり、請求項16に係る発明の評価関数が、平滑化の程度とどの様に関連するかが分からない。

#### 引用文献等一覧

1. 特開平6-253139号公報 ✓
2. 特表平9-509295号公報 ✓
3. 特開平6-225131号公報 ✓
4. 特開2000-209449号公報

#### 先行技術文献調査結果の記録

調査した分野    H04N 1/40-1/409  
                   H04N 1/46-1/64

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

BEST AVAILABLE COPY